

## 1 産地の概要

<対象地域> 名古屋市港区南陽地域

<対象品目> 水稲

<産地の現状・課題>

- ・当地域は、水稲作を主にした名古屋市最大の農業地域で総面積は約290ha、生産者は368戸ある。7つの土地改良区の理事長が主となり地域の担い手(1法人、経営体7戸)に水田の利用を調整している。また、農地は多くが大区画(0.5~2ha)に整備され、V溝直播による作期分散も加わり、生産の効率化が図られている。
- ・しかし、都市化による生産者の減少や高齢化による労力不足が進みつつあり、今後は担い手に農地がさらに集約されることが想定され、現状の営農体系では大面積の管理が困難である。そのため、生産面の効率化・精度の向上が一層求められると同時に、経験の浅い作業者を早期に育成することも重要となる。

## 2 検討体制

<協議会構成員と役割>

- ・生産者(技術検証、革新計画検討)
- ・経済農業協同組合連合会(技術検証助言、革新計画検討)
- ・尾張農林水産事務所農業改良普及課(技術検証分析、革新計画検討)
- ・名古屋市緑政土木局都市農業課(革新計画検討)
- ・なごや農業協同組合(事務局、技術検証助言、革新計画検討)



ガイダンスモニター検証の様子

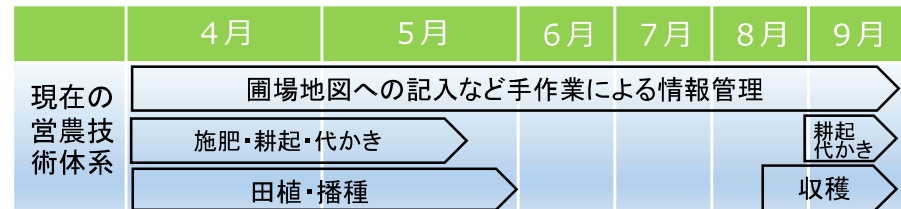


先進産地調査の様子

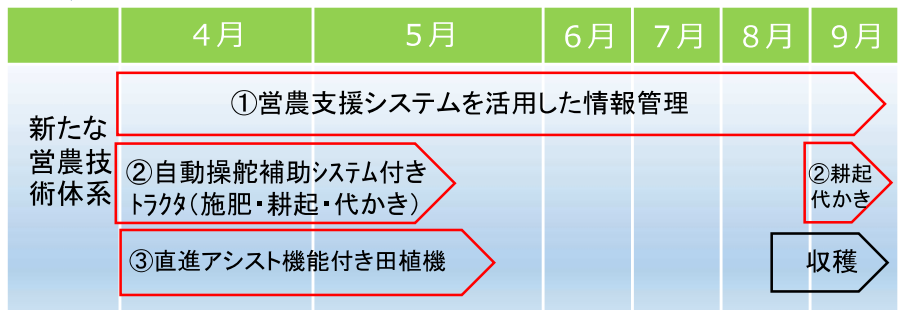
## 3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

自動操舵補助システムなどを導入し担い手の早期育成と作業精度及び収量・品質の向上を図るとともに、営農支援システムの導入・活用により作業及び労務管理の効率化を図る。



- ①営農支援システム導入 ②自動操舵補助システム導入  
③直進アシスト機能付き田植機導入



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ◎ ガイダンスモニターの活用により、代かき時の走行間隔の精度が向上
  - ・初心者【現状】隙間20cm → 重複5cm
  - ・熟練者【現状】重複16cm → 重複3cm

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

